

東洋史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
東洋古代中世史特論Ⅰ	六朝時代の諸問題	2	川合 安	1学期	金	2	1	東洋古代中世史特論Ⅰ
東洋古代中世史特論Ⅱ	隋唐時代の諸問題	2	川合 安	2学期	金	2	2	東洋古代中世史特論Ⅱ
東洋古代中世史特論Ⅲ	中国古代刑罰制度の諸問題	2	宮宅 潔	集中(2学期)			3	東洋古代中世史特論Ⅲ
東洋近世史特論Ⅰ	中国近世史の諸問題Ⅰ	2	大野 晃嗣	1学期	火	5	4	東洋近世史特論Ⅰ
東洋近世史特論Ⅱ	中国近世史の諸問題Ⅱ	2	大野 晃嗣	2学期	火	5	5	東洋近世史特論Ⅱ
東洋近世史特論Ⅲ	清朝のモンゴル統治	2	岡 洋樹	1学期	水	4	6	東洋近世史特論Ⅲ
東洋近世史特論Ⅳ	近世海域アジア史の諸問題	2	新宮 学	2学期	火	2	7	東洋近世史特論Ⅳ
東洋史学研究演習Ⅰ	『宋書』礼志の研究Ⅰ	2	川合 安	1学期	金	5	8	東洋古代中世史研究演 習Ⅰ
東洋史学研究演習Ⅱ	『宋書』礼志の研究Ⅱ	2	川合 安	2学期	金	5	9	東洋古代中世史研究演 習Ⅱ
東洋史学研究演習Ⅲ	明清官僚制度研究Ⅰ	2	大野 晃嗣	1学期	水	5	10	東洋近世史研究演習Ⅰ
東洋史学研究演習Ⅳ	明清官僚制度研究Ⅱ	2	大野 晃嗣	2学期	水	5	11	東洋近世史研究演習Ⅱ

科目名：東洋古代中世史特論Ⅰ／Ancient and Medieval History in Asia(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

学期：1学期， **単位数：**2

担当教員：川合 安（教授）

講義コード：LM15204， **科目ナンバリング：**LGH-HIS601J， **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 東洋古代中世史特論Ⅰ】

1. 授業題目：

六朝時代の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Subjects of The Six Dynasties Time

3. 授業の目的と概要：

中国の六朝時代（魏晉南北朝時代、220～589）は、秦漢古代帝国の崩壊をうけて、新たな国家秩序構築の模索が行われた時代であった。講義では、この時代につくられた政治・社会体制—いわゆる「貴族制」の構造や実態について分析し、当時を生きた人々の社会的活動や思想などの具体相を浮かび上がらせることを試みる。この混沌と模索の時代を生きた人々の営みについて、自分なりに考えつつ、中国史における六朝時代の意味について理解を深めることを目的とする。

4. 学習の到達目標：

六朝時代の政治・社会体制の特質を理解し、興味をもった論点について、自分なりに調査して論じることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、六朝時代の概略
- 2、秦漢古代帝国の概要
- 3、九品官人法の制定と魏の貴族
- 4、九品官人法の制定と西晋の貴族
- 5、東晋の貴族
- 6、宋・齊の貴族
- 7、宋・齊の貴族的官制
- 8、宋・齊の新興貴族
- 9、梁の武帝の改革と貴族
- 10、北魏前期の鮮卑貴族と漢人貴族
- 11、北魏・孝文帝の改革と貴族
- 12、北魏末期の貴族
- 13、北齊の貴族
- 14、北周の貴族
- 15、総括と展望

6. 成績評価方法：

小レポート（毎回の授業時に提出）30%、期末レポート70%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布

参考書：川勝義雄『魏晉南北朝』（講談社「学術文庫」2003年）。ほかは、講義中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等を参照して調査し、それでもわからない点については、授業時間中でも質問を受け付ける。また、授業時間外に質問してもよい。

9. その他：なし

科目名：東洋古代中世史特論Ⅱ／ Ancient and Medieval History in Asia(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：川合 安（教授）

講義コード：LM25203， 科目ナンバリング：LGH-HIS602J， 使用言語：日本語

【（平成30年度以前入学者）対応科目名： 東洋古代中世史特論Ⅱ 】

1. 授業題目：

隋唐時代の諸問題

2. Course Title（授業題目）：

Subjects of Sui and Tang dynasties

3. 授業の目的と概要：

隋唐時代は、六朝時代の政治的分裂を克服して統一を回復した時代であったが、なお、多くの矛盾をかかえていた。このような隋唐時代政治史の諸問題について考察し、理解を深める。

4. 学習の到達目標：

隋唐時代の政治史の諸問題について、その概略を理解し、特に関心をもった問題について、関連の研究論文等の調査を進め、考察できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、隋唐時代の概略
- 2、隋王朝の政治
- 3、貞観の治
- 4、則天武后の時代
- 5、玄宗の時代
- 6、安史の乱
- 7、安史の乱後の情勢
- 8、徳宗の時代
- 9、憲宗の時代
- 10、甘露の変
- 11、武宗の時代
- 12、武宗の廃仏
- 13、宣宗の時代
- 14、黄巢の乱
- 15、総括

6. 成績評価方法：

小レポート（毎回の授業時に提出）30%、期末レポート70%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：布目潮風・栗原益男『隋唐帝国』（講談社「学術文庫」、1997年）。その他、授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業で配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等で独力で調査し解決することを試み、それでも不明な点は、随時質問する。授業時間中に質問してもよい。

9. その他：なし

科目名：東洋古代中世史特論Ⅲ／ Ancient and Medieval History in Asia(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

学期：集中(2学期)、 単位数：2

担当教員：宮宅 潔（非常勤講師）

講義コード：LM98820、 科目ナンバリング：LGH-HIS603J、 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 東洋古代中世史特論Ⅲ 】

1. 授業題目：

中国古代刑罰制度の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

The Problem of the Penal System in the Early China

3. 授業の目的と概要：

中国秦漢時代の法制、とりわけ刑罰制度と裁判制度について講義する。わが国にも大きな影響を与えた古代中国の法律・制度は、統一王朝のできあがる秦漢期に、その祖形ができた。ただしそこには後代と違う特色が見られ、古代的な制度が次第に変化していった過程が確かめられる。例えば秦代、さらにはそれより古い時代には「肉刑（身体毀損刑）」が行われており、それが漢代にも継承されたが、漢の文帝13年（前167）に至って廃止された。古代から中世へとむかう歴史のなかで、制度が如何に変化し、その背後に如何なる社会の変化が認められるのか、理解を深めることを目指す。

4. 学習の到達目標：

中国古代の法制の変遷に関して理解を深める。その知識の上に立って、古代社会の特質やその後の変化を俯瞰し、歴史事象を分析していく力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、「法」、「刑」の成り立ち
- 3、殷周時代の刑罰・裁判
- 4、春秋・戦国時代の変化
- 5、秦漢法制史料の紹介：睡虎地秦簡・張家山漢簡
- 6、秦漢時代の死刑とその種類
- 7、「棄市」とは？
- 8、秦漢死刑制度の構造
- 9、労役刑の起源と肉刑
- 10、秦漢時代の肉刑
- 11、秦漢時代の「労役刑」
- 12、肉刑の廃止とその背景
- 13、秦漢時代の裁判制度
- 14、秦漢裁判制度の特徴：ヨーロッパとの比較
- 15、総括

6. 成績評価方法：

授業への参加態度（20%）とレポート試験（80%）を総合して判定

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する

8. 授業時間外学習：

授業で紹介した論文、史料を精読すること

9. その他：なし

科目名：東洋近世史特論Ⅰ／ Early Modern History in Asia(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣（准教授）

講義コード：LM12504， 科目ナンバリング：LGH-HIS604J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 東洋近世史特論Ⅰ 】

1. 授業題目：

中国近世史の諸問題Ⅰ

2. Course Title（授業題目）：

Issues of the Early Modern China

3. 授業の目的と概要：

近世中国王朝の政治と官僚制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。今学期は、元王朝の Legal Professionalism について、前後の王朝との相違点などを理解する。

4. 学習の到達目標：

Paul Heng-chao Ch'en 著” Chinese Legal Tradition under the Mongols” を題材にして、元王朝の法律制度を中心に、近世中国王朝の官僚機構と法律制度について基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳をしながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 中国近世史の諸問題Ⅰー（1）及び行政制度の基礎知識
3. 中国近世史の諸問題Ⅰー（2）及び行政制度の基礎知識
4. 中国近世史の諸問題Ⅰー（3）及び法律制度の基礎知識
5. 中国近世史の諸問題Ⅰー（4）及び法律制度の基礎知識
6. 中国近世史の諸問題Ⅰー（5）及び法律制度の基礎知識
7. 中国近世史の諸問題Ⅰー（6）及び行政区画の基礎知識
8. 中国近世史の諸問題Ⅰー（7）及び行政区画の基礎知識
9. 中国近世史の諸問題Ⅰー（8）及び行政区画の基礎知識
10. 中国近世史の諸問題Ⅰー（9）及び人事制度の基礎知識
11. 中国近世史の諸問題Ⅰー（10）及び人事制度の基礎知識
12. 中国近世史の諸問題Ⅰー（11）及び人事制度の基礎知識
13. 中国近世史の諸問題Ⅰー（12）及び中国近世法制史に関する討論
14. 中国近世史の諸問題Ⅰー（13）及び中国近世裁判機構に関する討論
15. 中国近世史の諸問題Ⅰー（14）及びまとめ

6. 成績評価方法：

授業中の発表時に、レポート提出を要求する。

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。

9. その他：なし

科目名：東洋近世史特論Ⅱ／ Early Modern History in Asia(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

学期：2学期， **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣（准教授）

講義コード：LM22504， **科目ナンバリング：**LGH-HIS605J， **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 東洋近世史特論Ⅱ 】

1. 授業題目：

中国近世史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Issues of the Early Modern China

3. 授業の目的と概要：

近世中国王朝の政治と官僚制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。

4. 学習の到達目標：

英語で書かれた中国史に関する学術論文を読みながら、近世中国王朝の官僚機構と法律制度について基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳しながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 中国近世史の諸問題Ⅰー（1）及び行政制度の基礎知識
3. 中国近世史の諸問題Ⅰー（2）及び行政制度の基礎知識
4. 中国近世史の諸問題Ⅰー（3）及び法律制度の基礎知識
5. 中国近世史の諸問題Ⅰー（4）及び法律制度の基礎知識
6. 中国近世史の諸問題Ⅰー（5）及び法律制度の基礎知識
7. 中国近世史の諸問題Ⅰー（6）及び行政区画の基礎知識
8. 中国近世史の諸問題Ⅰー（7）及び行政区画の基礎知識
9. 中国近世史の諸問題Ⅰー（8）及び行政区画の基礎知識
10. 中国近世史の諸問題Ⅰー（9）及び人事制度の基礎知識
11. 中国近世史の諸問題Ⅰー（10）及び人事制度の基礎知識
12. 中国近世史の諸問題Ⅰー（11）及び人事制度の基礎知識
13. 中国近世史の諸問題Ⅰー（12）及び人事制度に関する討論
14. 中国近世史の諸問題Ⅰー（13）及び教育制度に関する討論
15. 中国近世史の諸問題Ⅰー（14）及びまとめ

6. 成績評価方法：

授業中の発表時にレポートの提出を要求する。

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。

9. その他：なし

科目名：東洋近世史特論Ⅲ／ Early Modern History in Asia(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：岡 洋樹（兼務教員）

講義コード：LM13403， 科目ナンバリング：LGH-HIS606J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 東洋近世史特論Ⅲ 】

1. 授業題目：

清朝のモンゴル統治

2. Course Title（授業題目）：

The Qing Dynasty's Rule over the Mongols

3. 授業の目的と概要：

マンジュが建国した清朝（大清国）は、17 世紀から 18 世紀半ばまでにモンゴル遊牧民の大半を支配下に入れ、中国農耕社会と遊牧民社会を統合し、安定した統治を打ち立てた。また清の支配は、ロシアの東進とともに現在に至る東北アジアの政治地図の原型を作ったという意味でも重要な時代である。本講義では、清朝のモンゴル遊牧民統治の成立過程と行政統治の構造や統治手法の特徴を、遊牧民社会の特質にも目を配りつつ考察し、東北アジア地域史におけるその歴史的意義を論じる。

4. 学習の到達目標：

清代のモンゴルについては、東北アジアの遊牧民史上、漢文のみならず、モンゴル文・満洲文の史料が多数残されている。清代は、漢文史料などの隣接地域の史料に依拠しなければならない北元期までとは異なり、遊牧民自身が残した史料を用いてその政治・経済・社会・文化を明らかにすることができるという点で、前近代遊牧民史中特異な時代である。本講義では、これらの史料を用いながら、遊牧民の社会を内在的に理解することを目的とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義では以下の内容を考察する予定である。

1. イントロダクション：清朝のモンゴル統治と民族語史料

清代モンゴル史研究で用いられる主な史料を紹介し、これまでの研究史を概観する。

2. 清朝のモンゴル統治：統治の構造とその歴史的文脈
3. 清朝のモンゴル統治：いわゆる「封禁政策」をめぐる
4. 清朝のモンゴル統治：清朝皇帝と王公たち
5. まとめ：東北アジア史の中の清代モンゴル

6. 成績評価方法：

出席（50%）とレポート（50%）により評価する。

7. 教科書および参考書：

モンゴル史の概説

護雅夫，岡田英弘編『中央ユーラシアの世界』民族の世界史 4、山川出版社、1990 年

宮脇淳子『モンゴルの歴史：遊牧民の誕生からモンゴル国まで』刀水書房、2002 年

島田正郎『北方ユーラシア法系通史』創文社、1995 年

清代の概説

岡田英弘，神田信夫，松村潤『紫禁城の栄光：明・清全史』講談社（講談社学術文庫）2006 年

石橋崇雄『大清帝国への道』講談社学術文庫、2011 年

清代モンゴル史の研究文献

田山茂『清代に於ける蒙古の社会制度』文京書院、1954 年

萩原守『清代モンゴルの裁判と裁判文書』創文社、2006 年

岡洋樹『清代モンゴル盟旗制度の研究』東方書店、2007 年

その他

森川哲雄『モンゴル年代記』白帝社、2007 年

8. 授業時間外学習：

講義に臨み、上記参考書などにより、北アジア遊牧民史についての基本的な知識を得ておくこと。

9. その他：なし

科目名：東洋近世史特論Ⅳ／ Early Modern History in Asia(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

学期：2 学期， **単位数：**2

担当教員：新宮 学（非常勤講師）

講義コード：LM22207， **科目ナンバリング：**LGH-HIS607J， **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 東洋近世史特論Ⅳ 】

1. 授業題目：

近世海域アジア史の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Various Problems of Pre-modern Sea Asia History

3. 授業の目的と概要：

1990 年代以降に盛んとなった海域アジア史研究の中でも、近年の遣明船に注目した日明関係史研究は最も豊かな成果が挙げられている。授業では、天文八年（1539）遣明船の副使を勤めた五山僧策彦周良が残した日記『初渡集』（策彦入明記）の解読を通して、これらの研究成果を学ぶ。策彦とともに、五島列島を経て寧波、杭州、北京と明朝中国を旅行しながら、彼の文明理解と異文化体験を手がかりに、16 世紀以降の海域アジア世界における明朝と日本それぞれの社会・経済・文化の諸相を比較考察する。

4. 学習の到達目標：

16 世紀以降の海域東アジア世界における明朝と日本の社会を比較分析する方法を習得すること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス 近世海域アジア史の中の日明関係史研究
- 2、周良策彦『初渡集』について
- 3、博多滞在と五島奈留出航
- 4、温州府と昌国衛入境
- 5、定海港着岸
- 6、寧波到着と市舶司
- 7、寧波嘉賓堂滞在
- 8、上京使節の交渉
- 9、杭州・蘇州
- 10、揚子江と大運河北上
- 11、天津・張家湾
- 12、崇文門入城
- 13、北京会同館滞在
- 14、宮城朝拝
- 15、まとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加状況（40%） レポート（60%）

7. 教科書および参考書：

テキスト：『初渡集』プリント配布

参考書：村井章介等編『日明関係史研究入門』（勉誠出版、2015）

桃木至朗編『海域アジア史研究入門』（岩波書店、2008）

8. 授業時間外学習：

授業で紹介した参考文献を読む。

9. その他：なし

日本の五山僧が漢文で記した日記を読み進めながら授業を行います。漢文の初学者を歓迎します。

科目名：東洋史学研究演習Ⅰ／History in Asia(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 金曜日 5講時

学期：1学期，単位数：2

担当教員：川合 安（教授）

講義コード：LM15502，科目ナンバリング：LGH-HIS608J，使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者)対応科目名：東洋古代中世史研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

『宋書』礼志の研究Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：

A study of SONGSHU LIZHI

3. 授業の目的と概要：

中国南朝時代の同時代史料たる沈約『宋書』の礼志を読む。南朝史料に特有の語彙や語法を習得するほか、官僚制度や礼制など、史料読解に必須の事項についての理解を深める。担当者は、担当部分についての訳注を作成して提出の上、その訳注について発表する。その発表内容について、受講者全員で検討を加える。

4. 学習の到達目標：

独特の用語を含んで難解な南朝史料の訳注を作成できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、『宋書』礼志とはどのような史料か
- 2、『宋書』礼志訳注作成の事例
- 3、『宋書』礼志を読む（1）魏晉禪譲の礼
- 4、『宋書』礼志を読む（2）西晋の郊祀
- 5、『宋書』礼志を読む（3）東晋の郊祀
- 6、『宋書』礼志を読む（4）晋宋禪譲の礼
- 7、『宋書』礼志を読む（5）劉宋・孝武帝出征の礼
- 8、『宋書』礼志を読む（6）孝建二年（455）の南郊
- 9、『宋書』礼志を読む（7）大明二年（458）の南郊
- 10、『宋書』礼志を読む（8）泰始二年（466）の郊祀をめぐる議論
- 11、『宋書』礼志を読む（9）泰始六年（470）の郊祀・明堂をめぐる議論
- 12、『宋書』礼志を読む（10）地祇の祭祀
- 13、『宋書』礼志を読む（11）劉宋初の天地の祭祀に関する上奏
- 14、『宋書』礼志を読む（12）劉宋・孝武帝の明堂祭祀
- 15、授業の総括

6. 成績評価方法：

発表内容70%、訳注検討への参加状況30%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する

参考書：授業中に紹介する

8. 授業時間外学習：

訳注作成担当者は、授業時間前に訳注を作成する。担当者以外も、授業で訳注の検討に加わることができるように、あらかじめ授業で読む部分に目を通し、疑問点を整理しておく。

9. その他：なし

科目名：東洋史学研究演習Ⅱ／ History in Asia(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LM25502, **科目ナンバリング：**LGH-HIS609J, **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 東洋古代中世史研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

『宋書』礼志の研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

A study of SONGSHU LIZHI

3. 授業の目的と概要：

『宋書』礼志の研究Ⅰの作業を継続するほか、Ⅱにおいては特に南朝における上奏文の形式や、合意形成の方法についての理解を深めつつ、当時の政治、制度、社会の実態究明を行えるようになることを目指す。担当者は、担当部分についての訳注を作成して提出の上、それについて発表する。その発表内容について、受講者全員で検討を加える。さらに、学期後半の授業では訳注作成の成果を踏まえた研究発表を行う。

4. 学習の到達目標：

訳注作成能力を向上させ、学術論文作成の基礎を確立する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1、ガイダンス

- 2、『宋書』礼志を読む (1) 祭祀の犠牲に関する議論
- 3、『宋書』礼志を読む (2) 三国・魏の明帝期の封禅の議論
- 4、『宋書』礼志を読む (3) 西晋平呉の際の封禅の議論
- 5、『宋書』礼志を読む (4) 西晋・武帝、封禅を行わず
- 6、『宋書』礼志を読む (5) 劉宋期における封禅の議論
- 7、『宋書』礼志を読む (6) 劉宋・孝武帝、封禅を行わず
- 8、『宋書』礼志を読む (7) 三国・魏の宗廟 (前段)
- 9、『宋書』礼志を読む (8) 三国・魏の宗廟 (後段)
- 10、『宋書』礼志を読む (9) 三国・魏の陵寝
- 11、『宋書』礼志を読む (10) 三国・呉の宗廟
- 12、『宋書』礼志に関する研究発表 (1) 郊祀
- 13、『宋書』礼志に関する研究発表 (2) 禅譲
- 14、『宋書』礼志に関する研究発表 (3) 封禅
- 15、授業の総括

6. 成績評価方法：

発表内容70%、訳注検討や研究発表への参加状況30%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する

参考書：授業中に紹介する

8. 授業時間外学習：

担当者は、訳注や研究発表の資料を事前に準備する。担当者以外も、訳注や研究発表についての検討に参加できるように、あらかじめ授業で読む部分や研究発表資料に目を通して、疑問点などを整理しておく。

9. その他：なし

『宋書』礼志の研究Ⅰとの連続履修が望ましい。

科目名：東洋史学研究演習Ⅲ／ History in Asia(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣（准教授）

講義コード：LM13505， 科目ナンバリング：LGH-HIS610J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 東洋近世史研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

明清官僚制度研究Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：

Studies of Bureaucracy in the Ming, Qing Dynasty

3. 授業の目的と概要：

明清時代の漢文史料を精読することを通して、中国近世の政治制度、官僚制度に関する基礎知識を習得し、同時に自分で課題探究をするために必須となる文書読解の訓練を行う。

4. 学習の到達目標：

中国明清時代の一次史料読解を通じて、政治制度、官僚制度研究に必須となる公文書の基本形式に慣れると同時に、当時の官僚制と社会について分析を加える。特に各回の担当者を決めず、全員が毎回発表する（日本語訳でも訓読でもかまわない）。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 明清官僚制度研究Ⅰー（1）
3. 明清官僚制度研究Ⅰー（2）
4. 明清官僚制度研究Ⅰー（3）
5. 明清官僚制度研究Ⅰー（4）
6. 明清官僚制度研究Ⅰー（5）
7. 明清官僚制度研究Ⅰー（6）
8. 明清官僚制度研究Ⅰー（7）
9. 明清官僚制度研究Ⅰー（8）
10. 明清官僚制度研究Ⅰー（9）
11. 明清官僚制度研究Ⅰー（10）
12. 明清官僚制度研究Ⅰー（11）
13. 明清官僚制度研究Ⅰー（12）
14. 明清官僚制度研究Ⅰー（13）
15. 明清官僚制度研究Ⅰー（14）及びまとめ

6. 成績評価方法：

発表内容（平常点）。

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、テキストを日本語訳し、内容について調べて授業にのぞむ必要がある。

9. その他：なし

科目名：東洋史学研究演習Ⅳ／ History in Asia(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣（准教授）

講義コード：LM23506， 科目ナンバリング：LGH-HIS611J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 東洋近世史研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

明清官僚制度研究Ⅱ

2. Course Title（授業題目）：

Studies of Bureaucracy in the Ming, Qing Dynasty

3. 授業の目的と概要：

明清時代の漢文史料を精読することを通して、中国近世の政治制度、官僚制度に関する基礎知識を習得し、同時に自分で課題探究をするために必須となる文書読解の訓練を行う。

4. 学習の到達目標：

I に引き続き、中国明清時代の一次史料読解を通じて、政治制度、官僚制度研究に必須となる公文書の基本形式に慣れると同時に、当時の官僚制と社会について分析を加える。特に各回の担当者を決めず、全員が毎回発表する（日本語訳でも訓読でもかまわない）。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 明清官僚制度研究Ⅱー（1）
3. 明清官僚制度研究Ⅱー（2）
4. 明清官僚制度研究Ⅱー（3）
5. 明清官僚制度研究Ⅱー（4）
6. 明清官僚制度研究Ⅱー（5）
7. 明清官僚制度研究Ⅱー（6）
8. 明清官僚制度研究Ⅱー（7）
9. 明清官僚制度研究Ⅱー（8）
10. 明清官僚制度研究Ⅱー（9）
11. 明清官僚制度研究Ⅱー（10）
12. 明清官僚制度研究Ⅱー（11）
13. 明清官僚制度研究Ⅱー（12）
14. 明清官僚制度研究Ⅱー（13）
15. 明清官僚制度研究Ⅱー（14）及びまとめ

6. 成績評価方法：

発表内容（平常点）。

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、テキストを日本語訳し、内容について調べて授業にのぞむ必要がある。

9. その他：なし